

様式第1号（第3条関係）

【健康あだち21専門部会】会議概要

会 議 名	令和5年度 第1回 健康あだち21専門部会
事 務 局	衛生部こころとからだの健康づくり課
開催年月日	令和5年7月13日（木）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	足立区役所 中央館8階 特別会議室
出席者	別紙名簿の内、15名
欠席者	2名
会議次第	別紙のとおり
資 料	令和5年度第1回健康あだち21専門部会 報告資料

様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

松本学務課長より、資料1に沿って説明

（豊川）他の区でも給食はあるが、やはりおいしいということが基本だと思う。その中でも、足立区の給食はおいしいと評判なので、今後の活躍、進展を期待している。

（片野）残菜率があまり見られなくなってきた望ましい。実際に小学校で私も給食をいただいたりしているが、じつは先生方のよそい方によってもだいぶ変わってくる。先生方も苦労しており、なんとか残菜率を減らそうと努力している方もいれば、まったく関係なくやっている方もいる。残菜率だけではなく、フードロスをなくすという観点から、こういう取り組みをしている学校もあるというのを全区的に知らせたりする仕組みがあれば、新しいフードロスという観点から子どもたちの意識も高まるのかなと思う。

（松本）参考にさせていただく。

水口足立保健所長より、資料2に沿って説明

片岡ワクチン接種担当課長より、資料3に沿って説明

水口足立保健所長より、資料4に沿って説明

（豊川）地域猫ポスターは、私の職場にも貼ってあるが、反響は大きかった。相談しやすさを広げていることもあって、今後しばらくは苦情件数の増加が予想されるが、結果として足立区のこの問題が減っていけばいいと思う。中長期的にみる必要がある。

半貫衛生管理課長より、資料5に沿って説明

（猿渡）健やかプラザで行う内容について、まだ決まってはいると思うが、病気によってウィッグ等を使用する人に対する援

助が検討に入っていると聞いたが、どういう風に考えているかわかる範囲で教えてほしい。

（半貫）すこやかプラザの1階に、ウィッグと胸部補整具の展示を予定している。助成については、令和5年度からデータヘルス推進課において開始しており、ウィッグはかかった費用の1/2で上限3万円。胸部補整具は同じく1/2で上限2万円。現在は30件ほど申請が来てるような状況である。チラシや啓発については、すこやかプラザにおいてもわかるような形で周知していく。

（馬場（区））少し補足する。ウィッグや胸部補整具については、がん患者向けの身だしなみを整える補助具になる。がんの向き合い方には3つの柱があり、1つ目は早期発見早期治療で今までと同じ、2つ目は本人に合わせた医療を進めていく、3つ目は地域との共生である。がん患者が手術をして、地域で働いたり今まで通り生活していく中で、がん患者の多くは薬の副作用で髪の毛が抜けて補整具としてのウィッグが必要になったり、乳がんの患者は胸を切除するので、それが目立たない胸部の補整具が必要になってくる。今年度から区も補助を行っているが、ウィッグなどはより近くでツヤ感などを確認したり、自然な感じかどうか確認してから購入したいと考えがあるので、すこやかプラザの一角で今後展示していくということである。

（猿渡）他の区では、貸出をしているというのも聞いている。薬剤使用の場合は短期間で済むこともあるので、足立区はどうかを聞いたかったが、今のところはないということを理解した。

（半貫）貸出はないが、リース費用も先ほどの補助制度が使える。

（猿渡）健やかプラザでは展示のみで相談室はないということも理解した。今後、自分の所属する協会の中でも、足立区の支援について相談していく。

（佐藤）歯科医師会の関係するところでは、3歳児健診と1歳半健診を各保健センターで行っていて、その担当を決めるにあたって3か月くらい前には決まっていないと困る。できるだけ早く、どこで何回開催するかなど変更区分を決めていただけると助かる。

（半貫）了解した。工事は予定通り進んでいるとのことなので、6月竣工で、9月の3連休で引っ越しを予定している。詳細が決まったらお知らせする。

（豊川）保健センターの管轄が変わるといって、慣れていたものが変わってしまい区民の方はびっくりする。是非、周知、柔軟な対応をよろしく願いたい。

半貫衛生管理課長より、資料6に沿って説明

（豊川）住民にとって必要な庁舎の移動になるので、これについても十分な周知をよろしく願いたい。

データヘルス推進課長兼務半貫衛生管理課長より、資料7、8に沿って説明

（馬場（保育園））偶然だが、今日自分の園で6歳臼歯健康教室を実施している。保健所の職員が丁寧に説明してくれていて、園の看護師も喜んでいて。フッ化物塗布事業について、歯の個人差は結構あると思うが、今後はその対象を広げていく予定はあるのか。

（半貫）対象者は年長児としている。

（山下）フッ化物塗布事業は、他自治体でも行われているのか。

（半貫）実施されている。

（山下）何割くらいの人が受けることを前提としているのか。

（半貫）73%くらいを想定している。

（豊川）22ページを見ると、5本以上未処置のむし歯がある子どもの割合が4%近く、あるいは2%台というのは多いのかなという印象である。全体的に広くいるというのではなく、おそらく特定の状態で悪い子がいると推察される。

データヘルス推進課長兼務半貫衛生管理課長より、資料9に沿って説明

（豊川）データヘルス事業において、区民の健康状態をより詳細なデータとして表現できることが期待される。このことによって、健康あだち21もより深いデータを用いた計画が策定されることが期待できる。

データヘルス推進課長兼務半貫衛生管理課長より、資料10に沿って説明

（豊川）糖尿病の多い医療費の負担は、足立区並びに日本全体における問題である。糖尿病の境界域の人たちにどのような対策をしていっているのかもう少し周知を進めて、たくさんの方に利用してもらえるようにしていければいいと思う。

網野こころとからだの健康づくり課長より、資料11に沿って説明

（豊川）この議題に限らず、足立区の保健センターやみなさんの日々の健康、地域住民の身の回りの健康にかかわることを教えていただきたい。

（中村）以前は、保健師さんが血圧計をもって地域を回っていたが、現在はどうか。やっていないのであれば、コロナも落ち着いてきたし、そろそろ再開してもいいのではないかと。前はよく保健師さんたちと

関わりがあって、周りの人から質問があるときなどはよく答えてくれていた。やはり地域に出てきてくれることも必要なのではないか。自分たち年寄りはいいが、若いお母さんたちのためにも、また地域に入ってきていただきたい。

（馬場（区））コロナ禍では、感染症業務に人員を割いていて、なかなか地域に出られず申し訳ない。お母さん方の赤ちゃん広場等の事業については、順次再開を始めている。できるだけ早く、すべての住区センターで展開できるようにしたい。高齢者事業の65歳以上のものについては、介護保険の介護予防の方で展開しており、福祉部で17のメニューを準備している。お互いに連携しながら、まず保健師は赤ちゃんの事業を最優先にして、住区センターなどで以前のように相談・交流ができ、育児を楽しめることができる地域づくりから始めていきたい。

（中村）年寄りは、保健師が血圧計をもって回ってくれるのを心待ちにしている。自分の妻も、保健師さんがきたと楽しそうに話していた。地域の中に保健所が入っていくというのは大事なことである。人員の整理ができれば、ぜひお願いしたい。

（豊川）私も学校で保健師教育をやっている。今の話を聞いて、住民から保健師に対するニーズが強いことが良くわかった。

（片野）月に2回喫茶をやっているが、そこに地域包括支援センターの方が来て、血圧を測ったり相談に乗ってくれたりしている。今、フレイルとかの問題に関して、住区センターで運動を毎朝やったりしているが、糖尿病の方がとても多いのにびっくりした。その方たちは、野菜をたくさん食べると良いとのことで、キャベツなんかを朝からたくさん食べているという話を聞いて

いるが、自分たちのような素人からしたら、野菜の摂取量を聞いても実際まったくわからない。住区センターなどでも目に見える形で摂取量が分かるものがあれば嬉しい。

（中村）今の話の関連で、去年の11月に伊興地域でイベントをやり竹の塚センターの健康づくり推進委員の方が野菜はこれくらいとブースを出して教えてくれた。なかなか好評だったので、イベント等にどんどん出ていただいて、目に見える形で見せていくと良いと思う。

（網野）確かに、野菜350gといっても分かりづらいうえ、それが生なのか火を通すかでまた量は変わってくる。コロナ禍で保健師が外に出ることは難しかったが、今年度から再び住区センターなどの自主グループだったり、健康づくり推進員の皆様であったり、一緒に取り組んでいく予定である。ぜひ、ご協力いただきたいと思います。

（豊川）野菜を食べると死亡率が下がるという研究はたくさんあるが、食べれば食べるほど良いというよりも実は350gほどいくとこれ以上食べてもあまり変わらないといわれている。200gや250gくらいである程度の効果は出ているので、350gを目標というよりも、出来るだけたくさんという感覚で野菜を取り込むので大丈夫なのではないか。そこまで350gという数字にこだわる必要はないと思う。

（山下）健康寿命のデータが出て、この10年間で約2歳延伸したことは大変喜ばしいことではあるが、東京都も全国も同程度伸びているので、元々の差は埋められていないということは残念に思う。また、健診について、受けてくれる人はまだ健康に関心を持ってくれているので良いが、健診を受

けてくれない人たちの方が悪いデータをもっている確率が高いと感じている。この受診率をいかに上げるかというのは、日頃から区と相談しながら実施率を上げていくよう頑張っているところである。受診すれば何かいいことがあるというインセンティブとか、保健指導でメリットがあるとか、数値が良くなると良いことがあるとか、以前に検討したと聞いている。なかなか特定の個人に利益を供与することは行政としては難しいとのことだったので、医師会の方で早期受診キャンペーンの懸賞として 300 万円の予算でギフトカードを 400 人に抽選し渡している。区の方ももう一度検討し直してみてもいいのではないか。糖尿病だけで診療費が 50 億、それに対して今一生懸命やっている重症化予防を 15 人とか 30 人を対象にやっても効果が限定的。少なくとも将来的にこの異業種を減らすところまで行けるかというとはなはだ難しいと想像する。受けていない人にどう受けてもらうかというには、ある程度大胆な策が必要なのかではないか。先ほどのフッ化物の話にも共通していて、結局塗らない子どもたちは難しい家庭の子が多く、そういう子たちこそ虫歯が多いという分がある。受けない予定の子どもたちをどうしたらよいかということを考えてから事業を始めた方が良い。

（馬場（区））インセンティブのことはまた検討するが、特定健診は足立区民では 2 割ほどの国保の被保険者で、残り 8 割は職場などで受けている。そのため、ここだけに予算を付けるのは正直難しい。医師会の方には申し訳ない。また、33 ページの資料を見ると、治療を行っていない人の中に HbA1c8.0 以上が 114 人いたり、疾患治療はしているが、78 人の HbA1c8.0 以上の人は糖尿病の治療はしていないといった人

たちがいる。もちろん健診は受けられるようにする体制は整えておく必要はあるが、健診に繋がらないといった人たちについては、忙しいといった人も多いと思う。これが癌といったものであればすぐ治療するはずだが、糖尿病だと後回しにしてしまう傾向があって、こういう数値が出ていると考える。なので、健診は受けやすくし、糖尿病と診断された人が自覚をもって医療機関に通えるような知識を身に付けてもらう必要がある。アンダーセブンと言われる合併症の出ない HbA1c7.0 以下でコントロールできるような雰囲気づくりも進めていきたい。歯についても、歯医者に連れていかない親がいることは悩ましいが、歯のケアが少なくてもすむという理由でむし歯を防げるフッ化物を広げることができれば、ハイリスクの人たちにも手が届くのではないかと考えている。

（佐藤）最後の部分だけ訂正したい。フッ化物を塗ったからといって虫歯にならないわけではない。20% くらいの効果と言われ決定的ではないので、フッ素入りの歯磨き粉を使い、日々歯みがきをすることが効果的である。極端に言うと、確かに歯みがきよりもフッ素の方がむし歯の予防効果があるので、毎日の歯みがきをしたうえで、歯科医院でフッ化物を塗るのが良い。

（笠原）介護保険のサービスを受けている 65 歳以上受給率はわかるか。

（馬場（区））このメンバーで、今すぐわかるものはない。申し訳ない。

（笠原）だいたいたくさんの方が利用しているか。

（馬場（区））要支援 1 の利用者を含めると、かなりの方が利用しているかと思う。

（笠原）70 歳でも 80 歳でも受けていないという方がいれば、何かインセンティブが

あってもいいのではないか。

（馬場（区））福祉部の事業で元気応援ポイントというものがある。

（中村）私はだいぶ前からお金を払い続けているが、介護サービスは使っていない。ポイントも良いが、使わなかった高齢者に対して賞状をあげれば良いと思う。

（馬場（区））7月26日の地域福祉推進協議会で、元気応援ポイントなどのリニューアルした案が出る。是非資料などを確認し、そこで意見していただければ幸いである。

（西方）認知症に掛かっている人の家族に、どのように伝えていったらいいのか、良いアイデアがあれば教えてほしい。田舎であれば気楽に伝えられるが、個人情報等あり、今は難しい。

（馬場（区））あたまの健康度測定というものがこの3月から始まっており、心配のある方が集団検診や個別に医療機関などで受診できたりするものがある。これについても、地域福祉推進協議会で案が出るので、確認いただければと思う。

（豊川）不安な気持ちは大変伝わった。多方面で足立区の施策があると思うので、それを使いやすくしていく必要があると感じた。また、先ほどの歯科の件で、足立区には子ども食堂が複数あると思うが、そこでフッ素を塗ったりすることができれば効果的になるのではないかと思う。

（山下）健康あだち21専門部会と先日成立したLGBT理解増進法は、何か影響を及ぼすことがあると想定しているか。健診において、男性が、腹囲とか血液検査の結果を女性の基準値で判定してほしいといった場合、医学的には全体的を射ないことであり、生物学的な性別によって疾患の発生にあわせて決まっている基準値なので、自

認とは別問題である。今後現場で混乱が出る可能性もある。そういう意味でも、事業主体である足立区の方で指針を出していただけたらありがたい。他の事業でもこのような影響を受けてしまうことがあるか聞きたい。

（馬場（区））新聞に既出済みだが、昨年の秋に、シェアハウスで生活をしている名前は男性の方に、女性のがん検診のお知らせを配付し、実は女性だったんだということが分かってしまうきっかけを作ってしまう出来事があった。事前に知っていれば、わからないようにして発送することもできたのだが、システムの不都合などもありそれができなかった。山下先生のご意見のとおり、影響が出てくるところもあるので、今後医師会といろいろ協議をしていきたい。

（豊川）性自認の問題はさまざまな箇所を整備していく必要がある。